

会議録（要旨）

					記録者 黒木 渚		
供 覧	部 長	次 長	課 長	課長補佐	主査・係長	グループ員	
件 名	令和6年度第2回龍ヶ崎市市民協働推進委員会						
日 時	令和6年10月16日（水）午後1時30分～午後3時10分						
場 所	龍ヶ崎市役所 5階 全員協議会室						
主 催 者	龍ヶ崎市市民協働推進委員会						
出 席 者	〔龍ヶ崎市市民協働推進委員会委員（9名）〕 福井 一喜 委員長、深澤 幸子 副委員長 池田 修 委員、中館 修希 委員、吉田 恵 委員 佐藤 真智子 委員、小林 克己 委員、島村 宏之 委員 松田 百合子 委員 〔事務局（4名）〕 鴻巣 倫子 課長、塚本 裕紀 課長補佐、記録者						
欠 席 者	0人						
傍聴人の数	0人						
会議の内容	議 題 （1）市民活動サポート補助金について （2）まちづくりポイント制度について						
情報公開	<input checked="" type="checkbox"/> 公 開	非公開（一部非公開を含む）とする理由					
	<input type="checkbox"/> 部分公開 <input type="checkbox"/> 非 公 開	公開が可能となる時期 （可能な範囲で記入）				年 月 日	

発言者	発言の内容（要旨）
福井委員長	<p>ただいまより、令和6年度第2回龍ヶ崎市市民協働推進委員会を開会いたします。</p> <p>なお本日は、委員総数9名のところ9名の委員が出席されており、定足数に達しておりますので、会議が有効に成立しておりますことをご報告申し上げます。</p> <p>はじめに会議録の作成に当たり、会議録署名人2名の指名をさせていただきます。今回は、吉田委員と佐藤委員をお願いいたします。</p> <p>おふたりには本日の会議録ができましたら、内容を確認していただき、会議録に署名をお願いいたします。</p> <p>それでは、さっそく議事の進行をさせていただきます。</p> <p>はじめに、「市民活動サポート補助金について」です。この件について事務局より説明をお願いします。</p>
事務局	— 事務局説明 —
福井委員長	<p>ただいま、事務局から説明がありました。この補助金につきましては、適正な補助金運用であるのか、また補助金の申請状況や動向確認など定期点検を行うこととなっております。</p> <p>委員の皆様には事務局から現状の説明があったことを踏まえ、質疑応答ではなく意見を出し合う形で進めていきたいと思っております。</p> <p>今の説明を踏まえて、気になった点やご意見等があれば、ご発言をお願いします。</p> <p>まず、「まちなか再生を考える会」の活動について、ご意見等ありますか。</p>
	— 発言者なし —
福井委員長	次に、「on the MUSIC」について、ご意見等ありますか。
深澤副委員長	資料を見ますと、事業等の期間が1ヶ月ですよね。2月に活動フェア本番と記載がありますが、ご説明願います。
事務局	<p>スタートダッシュ支援は、活動初期のサポートとして備品等整備等をはじめとする経費の一部を補助するものです。</p> <p>申請団体より、表記の事業プランで実施可能という話であったため、受理いたしました。</p>
島村委員	<p>市民活動センターとして、活動フェアのステージ運営などに携わった立場から発言します。</p> <p>活動フェアで演奏するに際して、ピアニストの依頼や楽譜など、それに対する必要な経費を使用されたと思っております。</p>
松田委員	この団体は、今回の活動のみで継続的な事業ではないのでしょうか。

島村委員	<p>今回は団体の立ち上げのため、補助金を活用し、クラシック音楽の普及啓発に向けて1つイベントに参加・演奏したということだと思います。</p> <p>今後については、また次の段階の活動になったら、ジャンプアップ支援などの補助金を活用して、活動されるのではないのでしょうか。</p>
福井委員長	<p>ありがとうございます。そのようなことで、事業等継続の有無が「有」となっているのですね。よろしいでしょうか。</p> <p>次に、「龍ヶ崎機関車推進協議会」について、ご意見等ありますか。</p>
深澤副委員長	<p>この間、市民活動サポート補助金事業実施報告会に出席しました。</p> <p>報告を聞き、イベント当日に多くの方が見に来たこと、反響があったものだと感じています。</p> <p>また、高校生・中学生にボランティアとして参加してもらうことも、とても良い取り組みだと思います。</p>
福井委員長	<p>事業等による効果についても明記されており、効果的なものだと見受けられます。他にはいかがでしょうか。</p> <p>次に、「ど根性ひまわりの会」について、ご意見等ありますか。</p>
深澤副委員長	<p>ど根性ひまわりも報告会にて内容を聞いてきました。</p> <p>会長を中心として、さんさん館前の花壇等で子どもたちとひまわりを育成したり、種の配布、花の写真撮影をしたりなど手広く貢献されていると感じました。</p> <p>また、被災地を忘れない取り組みは、とても大事なものだと思います。</p>
福井委員長	<p>次に、「NPO 法人龍ヶ崎の価値ある建造物を保存する市民の会」について、ご意見等ありますか。</p>
深澤副委員長	<p>こちらも報告会にて内容を聞いてきました。</p> <p>関係者の招待や演奏会なども交えて、竹内農場西洋館を広めたい、保存をしたいという思い、一生懸命さがよく伝わりました。</p>
島村委員	<p>私は当該団体の副理事長も務めていますので、その立場から一言発言させていただきます。</p> <p>100周年記念の式典と交流会では、研究員の先生による現地案内やミニコンサートを実施し、参加者は関係者を含めて約50人となりました。事業的には非常に良かったと思っています。</p> <p>令和6年度も継続の事業として、コンサートを中心とした内容で開催しました。</p>
福井委員長	<p>次に、「たつのごプレーパーク遊んじゃ王」について、ご意見等ありますか。</p>
深澤副委員長	<p>こちらも報告会にて内容を聞いてきました。</p> <p>誰でも参加できて、どんなもので遊んでも良いという雰囲気で行われているようです。ペットボトルの蓋を活用した遊びなど、たくさんの子どもの喜び姿が見られたと聞いています。</p>

福井委員長	<p>それでは、資料1-2の事業実施報告会についてです。団体・参加者からそれぞれご意見が出たということですが、これについてご意見等ありますか。</p>
島村委員	<p>報告会の司会を務めましたので、報告いたします。 事業を実施した4団体の説明により、活動の様子がよく理解できたと思います。また交流会では、補助金の活用について熱心に意見を出し合う様子がうかがえました。</p>
福井委員長	<p>市民活動団体さんを支援するという、報告会の目的に沿った内容となり、良いものだと思います。 その他、全体通して発言しそびれてしまった、後からお気づきになった点などがありましたらお願いします。</p>
吉田委員	<p>竹内農場西洋館のイベントや「まちなか再生を考える会」の事業ですが、子どもが参加している様には見受けられなかったのかなというイメージがあります。 このような歴史的建造物であれば、小・中・高校生など新しい世代に引き継いでいくような、発想力がある若者に知ってもらえるような機会を設けたら良いのではないかと思います。</p>
島村委員	<p>私も吉田さんの意見に賛成です。 実は報告会の中で、「たつのごプレーパーク遊んじゃ王」と「NPO法人龍ヶ崎の価値ある建造物を保存する市民の会」が連携して、竹内農場西洋館の前で子どもたちに遊んでもらったり、西洋館のペーパークラフトを作成して、遊びながら西洋館を知ってもらったりするのも面白いのではないかと、というアイデアをいただいております。 今後は、そのような子ども・若者向けのイベントができればいいなと思っています。</p>
福井委員長	<p>非常にいいアイデアだと思います。このような報告会を行うからこそ、団体同士の繋がりができたと思いますし、非常に期待できるというか、重要なことだったと思います。</p>
吉田委員	<p>今のお話を聞いてとても面白く、何か色々な楽しいことが起きそうだなと感じました。 今私は、「龍ヶ崎市 SDGs パートナシップ制度」に登録してしまっていて、その活動の中で小・中学校、高等学校とも連携していますが、生徒・学生の視点での興味があるものと大人が伝えたいことは少し違ったりします。 子どもは楽しい・映えるやインターネットなど、友達と共有するようなことが楽しい。大人は、伝統を引き継ぐことや、龍ヶ崎を知って欲しい。などを考えていると感じています。 子ども目線でのアイデアは、子どもから拾った方が良いと思っています。SDGs パートナの活動の中で、登録している学校の皆さんに事業を知ってもらうためのアイデアを出してもらえれば、費用面やSDGs パートナの実績として、双方に良いものだと思います。何か一緒にできることはないのかなと思いました。</p>

島村委員	<p>おっしゃる通りですね。我々60～80代の人たちが一生懸命やっていますが、やはり考えが固かったり、古かったりします。</p> <p>若い人たちの発想や子どもの視点などは、若い人たちから直接話を聞き、取り入れないと出てこないと思います。なので、そのような場も活用できたら良いなと思います。</p>
福井委員長	<p>ありがとうございました。よろしいでしょうか。今後もこのように補助金の定期点検を行って参りますので、よろしく願いいたします。</p> <p>次に、「まちづくりポイント制度について」です。この件について事務局より説明をお願いします。</p>
事務局	— 説明 —
福井委員長	<p>ただいま事務局からご説明がありましたが、まず前提として、まちづくりポイント制度は次回の委員会でも継続して検討していきます。</p> <p>本日は、事務局からの説明や資料に対して、質問や意見をご発言願います。まず、今回は「ポイントを紙媒体とデジタルのどちらにするべきか」をある程度結論を出して欲しいということですので、この全体について、ご意見や質問などがあればお願いします。</p>
中舘委員	<p>システム開発に携わっている者としての質問ですが、紙媒体とデジタルの併用の方法は割と多岐にあります。</p> <p>紙媒体を現在のようなシール手帳として運用したいのであれば、紙のシールに二次元コードを印刷し、シール・デジタルの双方に二次元コードを発行・展開すると実現はすると思います。</p> <p>ただ、紙とデジタルを併用して両方を配布する場合、両方登録することが可能となりますので、ここはシステムで防がないといけないと思います。</p> <p>なので、併用については理論上できます。ただ、紙とデジタルの二重交付を防ぐことや、有効期限の取り扱いの要件などを決める必要があります。この要件を市の担当者がしっかりと固めて、開発会社側に依頼すれば、それに対するアンサーは出てくると思います。</p> <p>予算の兼ね合いや、リリースするタイミングにもよるとは思いますが、技術的には問題のない範囲だと思います。</p> <p>資料のアンケートにもありましたが、自治会等が有効期限を理由にポイントを管理してる現状がありました。これは、有効期限があり個人では貯められないので町内会で管理すればいい、という理由で恐らく行っていると思いますが、この解決策も同時に考える必要があるかと考えます。</p> <p>併用した場合で個人に配布するというのであれば、個人の配布ルールを紙の方に厳格さをつけないといけないと思います。</p> <p>また、アンケートの質問「希望するポイントシールの配布方法」の件で、1点ご指摘させていただきたいことがあります。</p> <p>対象活動団体向けのアンケートは紙媒体、市民向けはアンケートフォームつまり、デジタル媒体で調査していることです。</p> <p>そうすると、団体の方はインターネットとは関係なく回答している。市民側は、スマホ・インターネットに触れている方のみが回答している。という前提なのです。</p>

中館委員

全体的には、インターネットに触れていない方はアンケートから除外されてははず。もしくはご家族が横について回答している可能性があります。

そこがまず1点あるので、アンケート結果からデジタル媒体に振り切る、というのは良くないだろうと思います。

ただ、一方で資料2-4の11ページを見ていただきたい。

通常、インターネットでのアンケート結果だと、50代後半は確実にデジタルを否定する層がある。しかし、このアンケートだと50代も含めて全員がデジタルを肯定してるので、これに関しては逆にすごいことだと思います。

なので、デジタルを入れることに関しては、逆に推進した方がいいでしょう。ただ、それでも紙媒体を否定するまでの材料とは言えないので、併用は現時点では必要なのかなと、個人的には思います。

また1つ、肯定的な意見のところで、制度の有効性や希望する交換メニューなどから見ると、もう圧倒的に全体回答数の47%、この回答だけに絞ると75%の方がグッズを欲しいと回答しています。なので、グッズの交換はそのまま推進した方がいいと個人的には考えます。

一方、否定面の部分でいうと、市民活動の情報が少ない。これはおっしゃるとおりでしょう。周知する手段がないと。

ここで余談ですが、このシールの交付は市が決定されてますよね、当然ですが。事業活動であれば、宣伝広告費をバンバン使えるところですけども、これは公共、非営利なので、周知にもすごい制限がかかり、難しいのだと。これが永遠の課題な気がします。

あとは、「制度自体が市民活動の参加機会として有効ではない」という意見が一定数多いところです。

制度がなくても参加する方、これはもう問題がないし、むしろその方は大事にしたい。制度があっても参加しない方、この方も短期で獲得することは難しい。

気にすべきところは、その他の回答が意外と多いということです。その他の回答の中の一部かもしれませんが、意見があるのは「ポイントが配布されない」というところだと思います。

要は、活動に参加しても達成感・経済的利益が享受されない。ここについては、何か施策を考えた方が良く個人的に思います。

あとは、市民活動に参加したことがない方に対しては、まだ十分、新規に活動参加してもらえる候補となりうる方なので、周知する方法はぜひ、考えていただきたい。

少しだけ話が逸れますが、この制度の対象活動団体の方というのは、NPO法人のような、自らが最低限の高収益を上げることが制度上、許されるのでしょうか。

意図としては、NPO法人は利用者の募集のために広告を出します。ただ、NPO法人は専業で、収益を主としてないのである程度そこは最低限認められている。その団体が小なりとはいえ収益を上げて、自ら広告を出すことは許されるのか聞きたいです。

今回、ポイント制度を改善・どうすべきなのか。とポイント制度から市民活動のこちら側を拡充するところまでを狙っているのか。っていうところをお聞きしたいです。

事務局	<p>今おっしゃられたとおりで、現状は特定層、特に高齢者の方の活用が多いので、ポイント制度を改めることでもっと多世代の方に活用していただくために、そして市民活動に触れていただける機会を設けるための目的の1つとしております。</p>
中館委員	<p>そうすると、りゅうほ一などの市広報紙、市の行政レベルだとあまり若い人は関心がないと思います。なぜならば、見る機会がないのです。</p> <p>そういう意味で、もし別の手段で周知する方法があれば、若者に届けられる選択肢が増えるんじゃないか。それを市の予算で行うのは難しいかもしれない。</p> <p>であれば、社会福祉法人や就労支援施設など、団体の方で対価を何かしらの周知のための広報紙に出すなど。そういうのも選択肢する可能性があるか、というところまでお聞きしたいです。</p>
事務局	<p>ポイント制度につきましては、もちろん今後広く周知していきたいと考えています。</p> <p>まだ知らない方、ポイント制度のアンケート結果としても出ておりますので、色々な媒体を活用しまして、周知の方を進めていきたいと考えております。それについては、今後の委員会で進めていければと思います。</p>
中館委員	<p>わかりました。そこまで話を広げるとおかしくなってしまうのと、理解できませんでしたので、お戻します。</p> <p>ポイント制度に関しては、スマホレベル、紙媒体は問題がないと。運用については、設計概要を詰めたものをシステム会社に提示する。そうしないとリリースしたときに問題が起こるケースが結構あるので。</p> <p>あとは私の前職が国家公務員なので、お役所内のジレンマも同時に理解はしているつもりです。そこについては予算とか、次年度に対応するとか、そういうことも十分あり得ると思いますので、そこも踏まえて相談できる環境を導入の前年度からやっておくというのもおそらくは問題ないと思います。もちろん、受ける事業者にはよりますが。</p>
福井委員長	<p>議論の最初の段階での専門的なご意見をありがとうございます。色々な委員の方からご意見をいただければと思います。</p>
吉田委員	<p>専門知識がない中での発言となり大変恐縮ですが、本件は、制度の見直しとともに、龍ヶ崎の中で生きる皆さんの生活環境を同時に変えられるのではないかと考えています。</p> <p>なぜかという、ポイント制度をデジタル化に移行するにあたり、誰も取り残さないようにするためにはと考えると、移行期間中など併用する時間は必要かなと思います。</p> <p>新しい時代、AIがどんどん進んでいて、今の人達でもついていけないぐらいにAI化やIoT、ブロックチェーンなど、たくさんの知らない言葉が出てくる中で、知らないまま取り残すのではなく、できないのであれば、できるように支援するのが一番良いと思います。</p>

<p>吉田委員</p>	<p>実は先日、中学校でキャリアの授業を行いました。授業では、どうしたら高齢者を残さずに若者との繋がりを作ることができるのか、をテーマに講義を行いました。その中で、部活としてボランティア部を立ち上げ、スマホの使い方がわからない高齢者に向けて、スマホの授業をする、という案が出ました。</p> <p>片方はボランティア部としての活動が成り立ち、社会貢献にもなります。そして高齢者の方は、子どもたちと触れ合うことができ、なおかつデジタルを学ぶことができる。さらに、活動の中で繋がりが生まれることで、もしもの時に心配してもらえたり、孤独死などの予防策にもなると思います。</p> <p>デジタルがわからない、対応できない人のために紙媒体を残すのではなく、デジタルに移行するための支援が必要だと思います。</p> <p>公式LINEアカウントを活用すると、シールの経費の約21万円が約5万円となると聞くと、すごく安上がりで良いなって思いますがイメージがしにくいです。そのイメージがわかかなかったのがまず1個です。</p> <p>もう1つは、若い人たちが興味を持たせるのであれば、すごろくのような競争心か芽生えるようなステータスみたいなものがあると参加者が増えるのかなと思います。私の経験ですと、40代を超えてくると社会貢献をいかにできるかな？という視点に変わりますが、若いうちは自分がいかに楽しいか？の方に目が向くと思います。</p> <p>アンケートでポイント制度がなくても社会貢献のために参加する方達と若者が同じ目標に向かうためには、違ったよきでアピールするしかないと思います。アプリの開発に費用が掛かるとはいえ、ずっと使っていくものだったら必要なのではないのでしょうか。1日にしたら何百円とかよく言いますけど、すごい高いお金だとしても、市民の総数を考えたらそうでもないかもしれない。</p> <p>みんなが楽しめるアプリの中にポイント制度があって、楽しみながらやる方や社会貢献のためにやる方がいる、その中で一緒にいる方達と絆ができ、ネットワークの中に自分もいつしか入っていて人脈が増える、みたいなのができれば高齢者の孤独死なども防げるのかなと思いました。</p>
<p>深澤副委員長</p>	<p>吉田委員の話聞いて楽しくなりました。高齢者と若者を繋いでいく案が出てくるというのは、頭の回転のやわらかさだろうなと思いました。</p> <p>やはり、紙媒体からデジタルに移行するにあたり、高齢者を置いてきぼりにしない。このところをよく考えなければならないと思います。</p> <p>このままデジタル化が進めば、必ず置いてきぼりになる高齢者が出てきます。そういうのをどうしたらいいのかというのを今、ボランティアや部活でやったらいいんじゃないかなど、色々な話が出てきましたが、そのような形で若い方との交流ができたなら高齢者もすごく喜ぶし、楽しく移行ができるんじゃないかなと思います。</p> <p>移行の仕方について若い方の意見も聞きながら、色々考えてみたら良いのではと思います。</p>
<p>福井委員長</p>	<p>今回の案件の1つのポイントは、ポイント制度の電子化により、若い世代の方たちが活動に参加しやすくなるのではないかとありますが、池田委員のお考えもお伺いできればと思います。</p>

池田委員	<p>前回の資料のアンケートを見て、「ポイントがあるから参加する」という方は少ないのかなと思いました。地域のイベントに参加したら、たまたまポイントがもらえてラッキー程度だと思います。</p>
福井委員長	<p>紙よりはスマホの方がやってみようかな、という気持ちにはなるのでしょうか。それとも媒体は特段、関係が無いのでしょうか。</p>
池田委員	<p>個人的に媒体は関係が無いのですが、LINE など楽な方がやってみよう、というふうにはなるのかなと思いました。</p>
福井委員長	<p>ありがとうございます。電子化に関係しない論点でも良いかと思しますので、他の委員の方々のご意見もぜひ、お願いします。</p>
小林委員	<p>私はもう完全に高齢者なのですが、スマホを持っていても自分でなかなかやれない部分もあるので、そういうのを教えていただける人がいれば、すごく良いのかなと思いました。</p> <p>また、そのような機会がないと自分で学ぼうという気持ちがなかなか出てこないで、吉田委員の発言にあったような子どもたちが教えてくれる機会があれば最高じゃないかと思えます。</p> <p>高齢者の方は、新しいものを取り入れていこう、という気持ちがどうしても段々と無くなってしまいます。ポイントシールの配布媒体をどうするのかというディスカッションも良いですが、中館委員の発言でもあったように併用の期間を設けて移行していく。高齢者もそれに沿ってやっていく。ということが大事なのかなと思います。</p>
佐藤委員	<p>私は、もう80代なので本当についていけないような話なのですが、デジタル化というのは大きな課題だと思います。</p> <p>分からない中でも、デジタル化を乗り越えていかないといけない、と思っています。</p> <p>龍ヶ崎市において、そのようなことが話し合われるようになってること自体がとてもうれしく思っています。</p>
福井委員長	<p>委員長の立場というよりは、一委員としての意見です。</p> <p>一般的なデジタルの議論では、若者対高齢者で置いて行かれる高齢者をどうするのか、という議論の枠組みをしますが、実は必ずしもそうではないのです。日本では、若い人たちのことを生まれたときからデジタルがあるから「デジタルネイティブ」と言ったりしますが、アメリカなどの専門家達は使わない言葉なのです。</p> <p>なぜなら、若い人たちはみんなデジタル技術を使える、ということ自体が思い込みであって、若くても色々な理由でスマートフォンを使えない人はたくさんいるからです。例えば、親から虐待を受けている方、貧困によりスマートフォンが購入できない家庭など。</p> <p>逆に、今回のアンケートでも出てますが、高齢の方でもスマートフォンが非常に良く使える方もいます。</p>

福井委員長	<p>日本政府のデジタル政策はあまりわからないですが、世界的なデジタル化の潮流というのは、年齢だけではなくインクルーシブな形で「デジタルという大きな時代の流れにみんなで乗っていくためにはどうすればいいのか」という考え方をしているのかな、と私は理解しています。</p> <p>なので、デジタルが使えない高齢者をどう切り捨てるのか。というよりは、みんなでデジタルの方に行けるように支援する。そこに色々なものを結びつけていく。ような、吉田委員がご提案されたような方向性が世界的には主流なのかな、と聞いていて思いました。</p> <p>特に障がいを持つ方達からすると、実はデジタルの方がインクルーシブだったりします。目が見えなくても音が出たりとかするので。</p> <p>そのような観点もあるので、大きくは高齢者の方が取り残されやすいのかなとは思いますが、年齢の枠にとらわれずに龍ヶ崎市全体で、できるだけ多くの方がデジタル化の対応できるような流れを作ろう。というお考えなのかなと、委員の皆さんのお話を聞いて思いました。</p> <p>ここで事務局に1点、確認する必要があると思います。</p> <p>併用が可能ならもちろん一番良いのだと思いますが、それは現実的にどの程度可能なのでしょうか。</p>
事務局	<p>現実的なお話ということでしたので、現在の私達の職務からお話しします。まちづくりポイント制度につきましては、我々が所属する市民活動推進グループのいくつかある業務の中の1つです。</p> <p>ただ、デジタル化等の新しい制度の構築など、ポイント制度にかかる業務量が増加しています。これをさらに、本日説明いたしました内容・課題を精査して1つの制度にしていくということは、現在、私ともう1名の2人体制なので現実的にはかなり難しいと考えてます。</p> <p>もちろんこういったこともありますので、増員の要請もしています。事業を行うには、人とお金がワンセットなのかなと思いますが、現在はそちらが足りてない状況であります。</p>
福井委員長	<p>デジタルにするのかしないのか、択一で答えを出して欲しいということでしょうか。もちろん、併用が現実的に可能なのであればそうするのだけど、という形で。</p>
事務局	<p>併用の件でアプリ開発のお話もいただきましたが、大分前の平成31年頃に見積りを取ったところ一千万円程度でして、今でも少なくとも数百万後半ぐらいかかるのではないかと思います。</p> <p>現在の予算規模は、全体で約150万円です。一千万円程度の予算があれば、すばらしいものができると思いますが、それは現実的ではないか思います。市公式LINEアカウントを使用したケースを案としましたのは、現在と同様の予算規模の中で実現できそうだったからです。</p> <p>すごく良い意見いただいたのですが、現実的に経費・人材の面、事務負担等を考えると、どちらか一方の選択とさせていただきます。</p>

事務局	<p>また、ポイントシールが金券扱いとなることが問題だと考えています。お金（ポイントシール）を先に渡していますが、例えばそれを紛失されてしまった場合は問題となります。そこについても10年経過した今、改善すべき事項であり、そのためにはデジタル化がベターなのかなという考えです。</p> <p>そのような面からも、併用ではなくデジタル化の方が現実的だと考えて説明いたしました。</p>
吉田委員	<p>今、大手企業が終身雇用制度を打ち切る流れが出ており、副業を可能にしている企業がほとんどになってきました。その中で、個人事業主で事業を立ち上げる方も増えています。また学校では、英語の授業の際に英語が話せる外部講師を呼んでいます。</p> <p>市役所の中で市職員が全部を管理しようとする。市職員が何でもできるから全部やらせる。というのは、どうなのかなと思います。外部委託のような形をとっても良いのではないのでしょうか。</p> <p>昔は、企業相手だったので費用がかかってしまったのかと思いますが、もし、有能な人たちを集めて個人単位にお支払いする形をとれば安く済むと思います。一人の個人事業主に委託するとなると危ない感じがしますがけれども、何人か集って作るものであれば信用できるような気もします。</p> <p>ですので、アプリ開発の見積りを取り直すことも1つですし、安くするための方法は別にあるのではないかと考えています。</p> <p>このポイント制度の仕組みを構築したら、多分それですといくのでしょから、最初から併用は無理と考えるのではなく、いかに良い案を練るか。というところに時間をかけた方が良いと思いました。</p>
福井委員長	<p>併用する方法も考えて欲しいというご趣旨でしょうか。誤解していましたらすみません。</p>
吉田委員	<p>併用を希望する趣旨ではなく、アプリ開発にこだわった方が良いのでは。という意見です。</p>
事務局	<p>スケジュールを申し上げますと、新しい制度の運用開始は令和8年4月の予定です。今年度は見直しの時期となります。予算の関係で申し上げますと、来年の今頃には確定している必要があります。</p> <p>来年の上半期で制度の内容を詰めていくため、時間的には1年ない状態です。</p>
中館委員	<p>デジタルと紙媒体を併用すると費用が高くなるかという、確かに多少高くなる可能性はあります。ただ、両方導入するからといって金額が跳ね上がるかという、導入の仕方によっていかようにもなる部分があります。</p> <p>紛失対策については、二次元コードが印刷されたポイントシールが紛失した場合、システム側でポイントを無効にすることが可能です。例えば、二次元コードを番号管理として、紛失の申告があったものを無効にするなどの機能があります。</p> <p>また導入が令和8年とのことですが、システムを作る側から考えますと、3ヶ月で一気に作るのと、10ヶ月、12ヶ月かけて作るのと言うと、後者の方が予算は下がります。空いてる時間に作ってくれるので。そのような意味で言うと期間を一定設けたほうが予算は圧縮できる傾向があります。</p>

中館委員	<p>それと、吉田委員の発言にありました委託ですが、私も現在、2つの自治体システムの相談的なもの請け負っています。その中でもアプリの相談は多いです。</p> <p>もちろん対価をいただいてやることもありますが、もう1つ、デジタル庁のデジタル推進委員制度というものがあります。事実上のボランティアが色々な自治体で進んでいるデジタル化の問題に対して支援するものです。スマホが使えない方に無償で教える・普及するなど。私もその委員になっているのですが。</p> <p>そういう、お金をかけないでデジタル推進委員に相談したり、先ほどの高校生の方に協力してもらったりすることも検討に入れられると良いのかもしれないです。</p>
福井委員長	<p>ではこのあたりで、1度集約したいと思います。</p> <p>まず確認として、デジタル化は止めて、完全に紙媒体のまま進めた方が良い。というご意見があって良いと思いますが、皆さんどうでしょうか。</p>
	<p>— デジタル化の否定意見はなし—</p>
福井委員長	<p>それはいいですかね。はい。</p> <p>あとは、私の提案ですが、デジタル化にするのかどうかという結論に関して、委員会として付帯意見をつけるのが良いのかなと思います。</p> <p>例えば、先ほどの私の発言で言うと、高齢者だけに対する支援ではなくて市民全体がデジタル化に取り残されないような工夫や施策が欲しい、みたいな。</p> <p>そのような付帯意見をつけていき、じゃあデジタルでっていう結論が良いのかなと思います。その付帯意見として、ご提案することがあったらどうですか。</p> <p>例えば、事務局の事情もあるということですがけれども、色々工夫をして何とか併用の道も探って欲しい。とかそのような感じです。</p>
深澤副委員長	<p>併用のことも考えてもらえるのであれば検討していただきたい。絶対無理ということであればしょうがないのですが。</p> <p>やっぱり、デジタルを見るだけで嫌だって言う方もたくさんいますから。併用も検討していただければと付帯意見をつけて、駄目ならば駄目で仕方ないかなと思います。</p>
福井委員長	<p>では、一度休憩とさせていただきますと思います。</p>
	<p>【休憩中】</p> <p>試作版のまちづくりポイント制度（LINE）を試行操作</p>
福井委員長	<p>それでは再開します。</p> <p>皆さん使ってみていかがでしょうか。これではまずいんじゃないかなど、もしご意見があればお願いします。</p> <p>思ったよりは簡単で、ただある程度の支援は必要かな？みたいな感じですかね。私もちょっと心配な部分がありましたけど。</p> <p>そういうようなところですかね。</p>

福井委員長	<p>それでは、委員会としては先ほど深澤委員が発言していましたが、「デジタル化する」という結論。</p> <p>ですが、併用の方法があるのであれば、それを検討していただきたい。どうしても無理であるならば承知するけれども、その方法をもう少し模索して欲しい。という付帯意見つけてデジタル化の方法にするという結論でよろしいでしょうか。</p> <p>デジタル化でもバーコードの読み取り方などを団体が支援してあげれば、あとは二次元コード読み取るだけなのでできるのかなと感じました。</p>
松田委員	<p>それとアプリの件ですが、吉田委員の意見でありました市民を募集して、協力してもらい、委託するというのは、市民と協働で行うという意味で良いなと思いました。ですが現実としては、今までも行政がその提案しても集まらなかった経緯があるので、なかなか集めるのは大変だと思います。</p> <p>今回の令和8年4月から運用開始に向けたものはこれで進めて、今後、アプリ化に向けて色々検討して進めていただき、何年後かにアプリ化できれば良いかなと思います。</p> <p>また、アプリ化に向けての学校への協力は、デジタルなどに関わる専門学校や大学に依頼するのが良いのではないかなと思いました。薬の開発にしても製薬会社が大学にある程度、資金提供して作ってもらうじゃないですか。</p> <p>そのような意味で、協力してくれる学校を見つけて予算等を交渉して、大学生のテーマとして開発してもらい、ずっと関わってもらいとすごく面白いかなと思いました。</p> <p>なので、長いスパンで考えて徐々にやっけていかないと急には無理なのかなと思います。委託する個人事業主を見つける・探すこともすごく難しいと思うんですね。</p>
福井委員長	<p>それ自体が1つのまちづくりの活動になる、そのようなことも中期的には考えていくような形が良い、というご意見ありがとうございます。</p> <p>それでは、よろしいでしょうか。</p> <p>以上で、本日の議題は終了いたしました。</p> <p>最後に、次回の委員会の開催日について、改めて確認させていただきます。次回の第3回委員会は、1月頃に開催する予定です。</p> <p>議題は、本日に引き続き「市民活動サポート補助金について」と「まちづくりポイント制度について」になります。</p> <p>今後、日程調整して開催日が確定した際は、開催通知を送付させていただきますので、よろしくお願いいたします。</p> <p>以上をもちまして、本日の委員会を閉会させていただきます。</p> <p>おつかれさまでした。</p>